

のきざきの



第 94 号

児童数 712名
(男364名 女348名)
P会員数 592名



分科会終了後、ソラース小学校にて。皆さんおつかれさまでした。

青森県PTA研究大会 三沢大会を終えて

「大空のまちからTake Off」私たちが変わる時！語り合おう、垣根を越えて」をテーマに十一月八・九日の両日、開催第十四回青森県PTA研究大会三沢大会が約二〇〇人の会員参加のもと開催されました。八日は七つの分科会に分かれ、講演やグループ討議、パネルディスカッションなどで意見交換や情報交換の後、夕方からは交流会、九日は大阪大学大学院教授・教育学博士の小野田正和先生から「子どもたちのためにつとむべく」学校への無理難題要求、イチヤモンのうらにみるもの」と題して基調講演が行われ、これが終了して、二日間の大会の幕が下りました。

さて、本崎野小学校は七つの分科会の一つ、特別分科会を担当。会場は三沢基地内ソラース小学校、分科会最多の二七名の参加者を得て開催。内容は「諸外国の学校教育と日本の相違」と題して①デンマークの教育、②台湾の教育、③アメリカの教育、④三ヶ国について各講師から講演、その後パネルディスカッションを行い、最後に山内校長先生から講演をいただき、無事分科会を終了する事ができました。

思えば、大会最初の会議で三沢市連合PTAの野川会長から「三沢市ならではの大会にしたい。ぜひ一つの分科会を基地内で開催をしたい」という意志に賛同しこの分科会を引き受け、四月中旬から三沢中心に実行委員会を立ち上げ準備してきました。

この約半年の準備期間は初めての経験であり、また基地内での開催という事で色々大変な事もありましたが、吉田教頭先生を中心に委員の行動力・協力のお陰で分科会を実施する事ができました。

しかし、準備の最終段階で台湾の講師の先生のパス取得ができず、基地内に入る事ができなくなるといふ不手際がありました。分科会では私が先生の資料を発表しましたが、参加者の皆さんにとっては満足のものではないかと、たとえ思うと残念でなりません。また、講師予定の先生にも大変ご迷惑をお掛けしたことは、大きな反省点となりました。

しかしながら、無事分科会も終了し、諸外国の教育制度や、保護者の学校への関わり方を開けたこと、教育の国際比較を学べたことは、我々にとって大変珍らしい有意義な分科会であったと思えます。

大会最終日、公営堂で分科会に参加した津軽の女性三人の方が私の所へ駆け寄り「昨日の分科会良かったよ」と言っていた事は何よりも嬉しい言葉になりました。

今回の大会・分科会を通じて本崎野小PTA会員が、大会テーマである「垣根を越えて」他単位PTA会員と連帯意識を持ち、一致協力して三沢大会を成し遂げた達成感と自信という成果を得たことは何ものにも代えがたいものとして、ひとりひとりの財産として残っていると、思います。

そして、この大会で得られた事は、これからのPTA活動に活かされることと思います。

最後に、本大会にご協力して下さいました役員、各委員会の皆様にお礼とご活躍を謝し、今後ともPTA活動にご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

本当にお疲れ様でした。



